

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ロント岡谷		公表日		2026年 3 月 31 日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		3	1
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		2	2	国の人員配置基準を守り加算要件を満たす人員配置を行っています。スタッフが研修で不在の時も臨時的スタッフを配置する等工夫をしております。	保育士、言語聴覚士、公認心理師、音楽療法士など児童分野での経験と専門性を備えたスタッフ配置を努めています。スタッフが働きやすい環境設定を工夫していきます。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		4		視覚的にわかりやすく、過ごしやすい環境になるよう心掛けています。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		4		毎日の清掃、消毒を行い清潔な環境に気をつけています。常時空気清浄機を稼働し、冬場は加湿器を設置しています。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		3	1	R8年4月より、もう一部屋も開放し、個別の対応や必要に応じて使い分けができるようにしています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		2	2	PDCAサイクルを心がけ、週に1回職員ミーティングにおいて現状把握、課題の抽出、業務の見直しを図っています。	ミーティング等で話し合う機会が多いが、すべての職員への周知に難があります。工夫をしていきたいと思っています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		3	1	ホームページで評価、公表を行っています。	引き続き検討、改善に繋げていきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		4		職員ミーティングで意見交換を行い、検討・改善につなげています。	全職員が参加できるような日程調整を行ってきたいと思っています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4			第3者評価の実施については今後の検討課題としてまいります。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。		4		外部研修に参加したり、内部研修を行い、支援の質を高めるよう努めています。また、特定非営利活動法人長野県相談支援専門員協会の開催する研修に特定のスタッフが参加をし、スキルアップに努めています。	引き続き職員の資質向上に努めます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		4		支援プログラムを作成、ホームページにて公表しております。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		4		5領域を軸に、ご利用者様の発達状態を踏まえて個別支援計画を作成しています。	ご家族の方との面談を定期的にもち、ニーズを把握し支援計画に反映していきたいと思っています。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		4		ミーティング等を開催し情報共有を図っています。また、ともに計画を作成し、偏った計画にならないような工夫を行っています。	全スタッフが作成できるように、知識や情報共有に努めたいと思っています。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		3	1	ミーティングでの情報共有を行うと共に、職員が個別支援計画もいつでも確認できるようにしています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		4			引き続きフォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメントを活用し適応行動の状況を確認していきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		4		ガイドラインの提供すべき支援に沿った支援内容を踏まえて個別支援計画に反映、設定しています。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1	日々の流れを汲みながら複数の職員がプログラム立案に参画し、全体で把握・修正しながら行います。また、ミーティングで職員間で意見を出し合い、立案しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		様々なテーマで活動を設定しています。回数を重ねることで獲得することを目的とする場合、意図的に継続してプログラムに入れることもあります。 R8年4月より平日：「みんなでのびのび(集団活動)」「じぶんでのびのび(個別活動)」「〇〇週間」のテーマに沿ったプログラムを各週おこなっています。休日長期休暇：運動・調理・季節行事に加え、企画力・実行力を伸ばすイベントなどの活動プログラムをおこなっています。	さらに新たな挑戦や様々な活動を検討していきたいと思っています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	1	ひとりひとりに応じた活動内容を設定しています。同じ活動を通して集団での支援や学びも計画しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	2		活動前のミーティングや打ち合わせ等を行えるようにしています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	2		活動後にも振り返りや支援内容の共有を行えるようにします。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		日々の支援記録等で支援内容を記録し、検討改善に役立てています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		概ね6か月に1度、見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4			地域交流の機会の提供を模索しながら今後もより良い支援に努めてまいります
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		活動の中で、自己選択や自己決定をする機会を多く取り入れています。また、活動の一つに自分でイベントをプランニングする、実行するなどして自己決定の力を養う機会を設けています。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		開催される場合には、児童発達支援管理責任者や管理者、担当者など、適任者を選んで出席します。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4			関係機関との連携と事業所内での情報共有を円滑に行えるよう努めます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		ご家族を通じて学校の年間行事表等をいただき、学校行事等を把握することでトラブルをおこさないように努めています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1	相談支援事業所を通じてアポイントとり、情報を共有する機会を設けています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		相談支援事業所を通じて、要望があれば情報を共有しています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	1		地域交流できるように努めていきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	1	参加できる体制をとっています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		日々の送迎や会議等で子どもの状況や課題について話をする機会を設けたり、必要に応じて個別に相談の時間も設けています。	気軽に相談ができるように努めていきます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2		研修等に参加したり、実施できるように努めていきます。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に説明させていただいております。また、不明な点は随時職員が説明するようにしています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		計画書に記載し、ニーズを踏まえた支援計画を作成しています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		支援計画内容を説明する面談を設け、同意を得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	1	日々の送迎や会議等で子どもの状況や課題について話をする機会を設けたり、必要に応じて個別に相談の時間も設けています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	3		今後もご家族で参加できる機会を検討していきます。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			引き続き迅速な対応に努め、相談支援体制の周知を図ります。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		ホームページで日々の様子をブログでアップしています。また、ラインで活動の連絡や持ち物の確認等を配信し、保護者の方への配慮も行っています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報が記載された書類などは鍵付きの棚にて保管しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	1	ことばと共にサインを使用したり、見てわかりやすい視覚補助的教材を使うなど伝達方法を工夫したり、伝わる方法を利用者や保護者、学校等に合わせるようにしています。その日の活動内容をホワイトボードに記載し表示しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2		交流できるように努めていきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		マニュアル等の作成、周知を行っています。また、想定して訓練も定期定期に行っています。	防犯マニュアルの検討を行います。定期的に行っている訓練を保護者に周知出来るように努めます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		想定して訓練も定期定期に行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		行っています。保護者と面談の際に確認を行い、変更等あった場合はお知らせしてもらえるようになっていきます。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			事例がなかったが、今後そのような場合は対応が出来るように努めていきます。また、定期的に確認できるよう検討していきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			安全計画についてのさらなる周知を検討していきます
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		初めての場所や活動での配慮することやアドバイスを保護者からもらう等し、事前に予測して活動に取り組めるようにしています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		事例を事業所内で共有し、また、その事例をマネージャー間でも共有し再発防止につなげています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止委員へ事例を報告できるような流れがあります。また、事業所内でもスタッフ間で話えるような機会を設けています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		事例はありませんが、行う前に事業所内で十分に話し合い、行わないようにするには何が必要かを検討市しています。やむを得ない場合は、保護者に十分理解をいただいたうえで短期間で設定し、計画書に記載します。		